JBA バイオエンジニアリング研究会の目指す方向性

バイオエンジニアリング研究会 事務局

バイオエンジニアリング研究会
ー設立目的＆スコープー

■設立目的

下記バイオエンジニアリング分野の開発と発展に寄与することを目的として、1988年に設立された。

✓バイオインダストリー関連の各種プロセス、装置類およびダウンストリームプロセシングの合理化

✓省エネルギー化または新しい研究成果の工業化

■研究会のスコープ

✓医薬品・再生医療・材料・食品・環境・エネルギーなどの広範な分野のエンジニアリング領域

✓2030年を見据えたエンジニアリング技術開発：IoT, デジタル、5G/6Gを用いたバイオエンジニアリング技術開発

バイオエンジニアリング研究会
ービジョン＆ミッションー

■ビジョン　（将来あるべき姿、目指したい未来の姿）

バイオ産業の共通基盤技術であるバイオエンジニアリングの振興を図り、日本のバイエンジニアリングのイノベーションを通じて世界に貢献する。

■ミッション　（社会において果たすべき使命や任務）

バイオエンジニアリングに軸足を置いた議論・研究の深耕と拡大を通じ、日本のバイオエコノミー戦略の推進に資する。

研究会の方向性＝基本方針　－3本柱－

バイオ産業の共通基盤技術であるバイオエンジニアリングの振興を図り、
日本のバイエンジニアリングのイノベーションを通じて世界に貢献する。

2030年
2025年
2021年

10年後をイメージして活動する！

広報・講演・啓発活動（Open）

例：白書報告

B＆I誌
活動報告
（定期報告）

講演会
BioJapan
啓発活動

小委員会活動（Closed）

基盤構築活動
例：国PJ提案・実施

活動報告
B＆I誌

テーマ設定
小委員会結成
⇒活動開始

時代に合わせて順次小委員会を立ち上げる

政策提言

政策提言

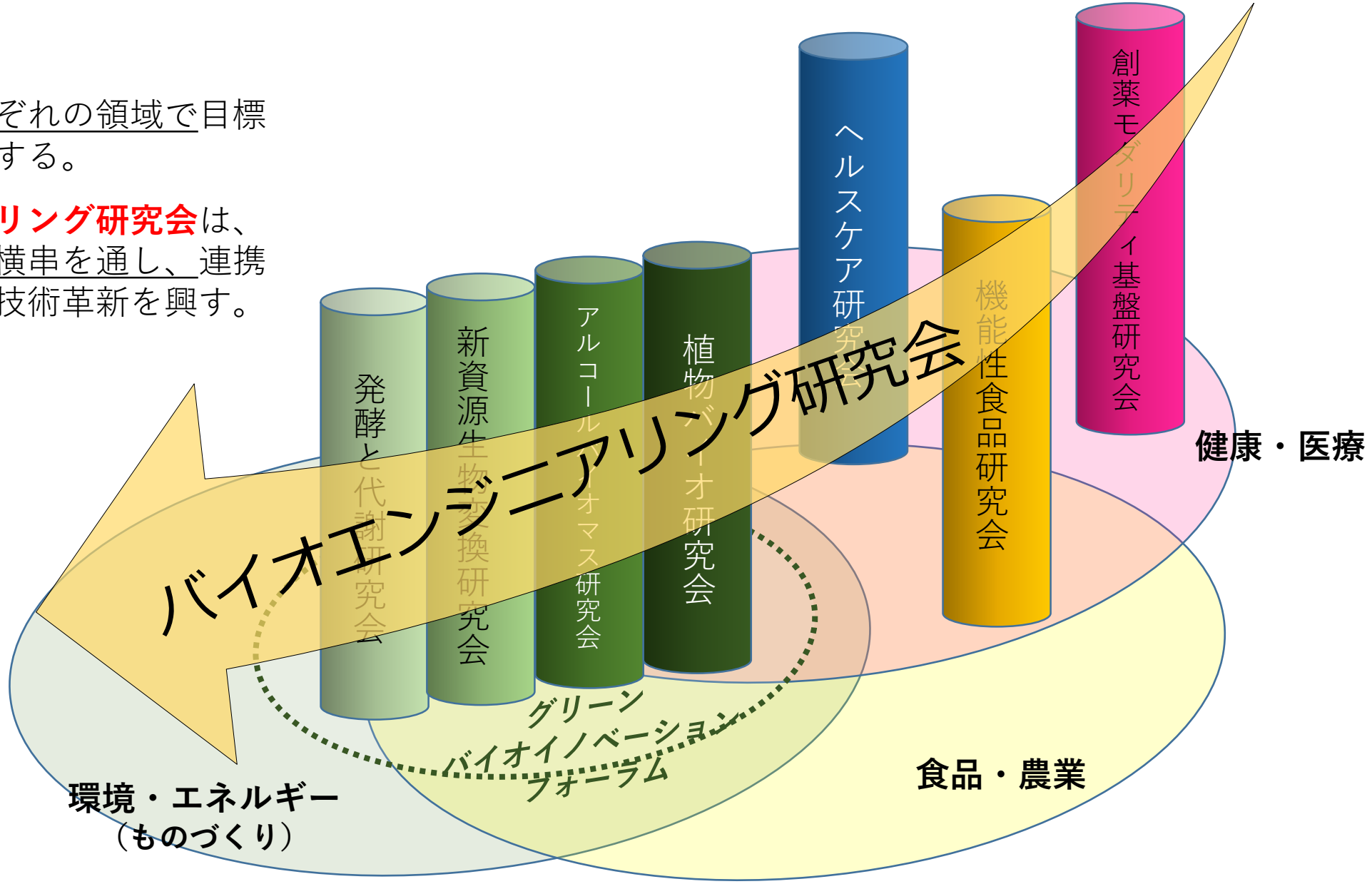
政策提言に向けた活動

・バイオ戦略に沿った活動や提言
・法規制(制定／緩和)等

JBAバイオエンジニアリング研究会

研究会の方向性＝基本方針　－横串貫通－

- **各研究会**は、それぞれの領域で目標達成に向けて活動する。
- **バイオエンジニアリング研究会**は、各産業（領域）に横串を通し、連携を強化することで技術革新を興す。



バイオエンジニアリング研究会

小委員会の役割

「色々なことが学べる」
「自分たちの考えや想いが産業に反映される」
「産業・国・世界に関与し貢献していることを実感できる」
そのために、…

■ 会員相互の能動的な議論を育み、日本のバイオ産業の振興と育成に資する

- 研究会活動の三本柱である「セミナー」「小委員会」「政策提言」のひとつとして、会員相互が忌憚なく意見交換できる、小人数、クローズドの場を提供する。
- 「小委員会」での自由闊達な議論を「セミナー」「政策提言」などの他の研究会活動につなげ、新たな技術開発や制度設計の提案など日本のバイオ戦略の推進に資する。

バイオエンジニアリング研究会

小委員会の運営方針

■ 透明性　*Transparency*

小委員会活動への理解と認知度を上げるため、活動内容および成果を小委員会メンバー以外の本研究会会員、JBA内／外に対してタイムリーに発信し、透明性の維持に務める。

■ 柔軟性　*Flexibility*

国内外の社会状況、技術、産業構造変化に即応した活動とするために、小委員会の新設・改廃を柔軟に行う。

2021年夏秋、活動開始！

小委員会（2021年度）のテーマ

小委員会リーダーの3名の先生に、**テーマを設定**していただいた。

リーダー	テーマ	備考
養王田先生	**バイオエンジニアリングにおける オミックス解析技術**	• サブリーダー：下広英樹氏〔ジーンデータ ㈱〕
大政先生	**バイオDXに向けた人材育成 －技術伝承から新産業分野まで**	• **人材×技術(伝承)** • サブリーダー：長森英二先生〔大阪工大〕
津本先生	**バイオエンジニアリングにおける 国際的人材の養成**	• **人材×マインド** • サブリーダー：湯本史明氏〔Ginward Japan ㈱〕

- 大政先生と津本先生のテーマは共に「人材」に係るものであるが、切り口が全く異なる。そこで小委員会では二つの切り口から議論していただくため、**メンバーを2テーマ共通**とする。大政先生・津本先生には交互にご担当いただく。